

編集後記

今年は台風の襲来もなく、平穩に実りの秋を迎えられそうである。

さて、桃田美純氏の論稿は、最近の本誌には掲載されていない分野で、中津市・豊後高田市・杵築市などに盛んであった人形芝居や歌舞伎の芸能民を扱ったものである。氏の年来の研究を集めた大作で、後進の研究者に裨益するところが大きい。研究ノート欄の佐藤節氏は、版籍奉還から廃藩置県にかけての日出落の藩制改革を、主として禄制と社寺改革の面からとらえ「旧体制の崩壊と新体制への苦難の道」を見事に描き出している。また、橋本操六氏の大友家臣団における「国衆」の解釈には説得力がある。

耶馬溪町宮園に在住の溝渕芳正氏は、当地の土豪であった中間氏の家譜を寄せられた。特定の家譜であるが、黒田孝高の豊前入部以後の動向が察知できるので紹介した。また、松岡実氏にはとくにお願いをし、日田市の圓満寺文書を紹介していただいた。本県の盲僧資料としては未公開のものであるから活用をお願いしたい。

(小玉)

昭和六十一年九月二十五日 印刷
昭和六十一年九月三十日 発行

大分県地方史 第二三三号

編集者 小玉洋美

発行者 渡辺澄夫

印刷者 中尾寿孝

別府市中央町九一五

印刷所 日の丸印刷株式会社

(電話) ②〇三四一

発行所

〒八七〇一一 大分市旦ノ原七〇〇

大分大学教育学部国史研究室内

大分県地方史研究会

(振替・下関八一五二九四番)